

四国が目指す将来像（概要）

～四国の未来創生に向けた問いかけとして～

基本的視点

- ① 四国の未来を託す将来世代のために！
- ② 「現実」を直視した地に足の着いた施策を！
- ③ 四県それぞれの特長を活かし、相互連携によるシナジー効果を開拓！
- ④ 課題解決のための具体的なアクションテーマを抽出し、実践！
- ⑤ 「アクションタンク」への起点となる今後の四経連活動の指針として！

◆ 四国の現状および将来予測

○ 人口減少・高齢化の加速

将来推計によると

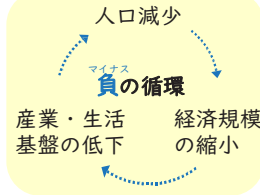
・人口は今後30年で約▲100万人。

1985年	→	2015年	→	2045年
423万人		▲40		385
				▲100
				282

・2045年には高齢化率が40%超、生産年齢人口は50%割れ。

	2015年	→	2045年
65歳以上	31%		▲41%
15～64歳	57%		▼49%

人口減少の加速に伴う負の循環に陥る懸念。



○ 世界的な時代潮流

足元のコロナ禍による価値観の変化とともに、

- ・人口構造の変化
- ・地球環境の保全(脱炭素)
- ・DX (デジタル革命)

などの時代潮流が「社会変革」をもたらす。

◆ 魅力ある四国であり続けるために

① 「地域色」を活かした経済活性化（経済規模の維持）

・四国の特長を最大限活かしながら、域外からの資金流入を増やし、域外流出を減らすとともに、域内循環を活性化させることにより、一人当たりGRP（稼ぐ力）を向上させ、経済規模を維持。 ※GRP:Gross Regional Product

・こうした取組みに資する人材育成や交通・情報インフラなどの産業基盤の維持・強化を目指す。

②さらなる連携・協調

・限られた地域資源（ヒト・モノ・カネ）の有効活用。

・それぞれの立場を越えて、オープンな意思疎通を図り、さらなる相互の連携・協調に取り組む。

四国が目指す将来像とアクションテーマ

－ 想いを一つに四国の未来創生に取り組んでいくために－

「四国が目指す将来像」

地域の豊かな自然、食の恵み、そして先人により培われた歴史・文化に誇りを持ち、

老いも若きも、また男女を問わず、自助共助の心構えの下で、互いを尊重し助け合い、

物心にバランスある豊かさを育みつつ、住む人が皆、背伸びしない自然体の幸福感を味わっている

そのような佇まいに国内外の多くの人が憧れ、心の洗濯をしたいとの想いを抱き訪れてくれる

**大きすぎず小さすぎない
適度なサイズ感の「サステナブルな島」**

課題先進地域から転じて、そのような次代の日本の有り様を先取りするモデル地域を目指す

－ 「将来像」の実現に向かってどんなことに取り組むか－

アクションテーマ

※ 足元から着手するテーマ

外から稼ぐ

(域外流入を増やす)

- ① 地域産品の販路拡大支援
- ② 海外販促支援
- ③ デジタル技術を活用した地域産業の活性化
- ④ 「四国の観光ビジョン」の具現化に向けた実践活動
- ⑤ 「四国の宝」としての四国遍路の維持・伝承
- ⑥ 四国内の関係人口づくり 活動の有機的連携

内を固める

(域外流出を減らす)

- ⑦ Uターン就職を喚起する地域情報の発信
- ⑧ 域内で就学する学生への企業情報の提供
- ⑨ 起業家・有望成長企業の発掘・支援と起業人材の育成

内で回す

(域内で回す)

- ⑩ 各教育機関との連携による「故郷四国を学ぶ教育」の充実
- ⑪ 各メディアとの連携による地域情報の域内発信の強化
- ⑫ 地域産品消費や生産過程での地域資源の最大活用などに関する意識高揚
- ⑬ 脱炭素社会に向けた取組み
- ⑭ 観光地に相応しい地域美化活動の推進
- ⑮ 経済界（四経連）を橋渡し役とする各界各層との対話機会の設定

内を創る

(産業基盤を整える)

- ⑯ 担い手不足、働き方改革など社会構造の変化に対応した人材育成・活用
- ⑰ デジタル化（DX）に関する情報提供・啓発と専門人材の計画的育成
- ⑱ 過疎化が進む地域における交通利便性の維持に向けた検討
- ⑲ 域内交通網の高速化推進（四国の新幹線・8の字ネットワーク）
- ⑳ 南海トラフ地震や多発する風水害の防災・減災対策

検討・取りまとめの進め方

4県12経済団体、四国各地で活躍している実業家や地域創生に取り組む活動家等へのヒアリング・意見交換会

- ・約40名の若手実業家等にヒアリング
- ・34名・6グループ×2回、計12回の意見交換会

将来世代を含めた各界各層の意見・提案を集約する形で取りまとめ

「外から見た四国」のアンケート調査

域外に本社のある四経連会員企業16社から回答